

文部科学省平成21年度GP選定 (テーマB)

「キャリアカルテを用いた生涯就職支援システムの構築」中間報告会 記録

開催日：2010. 3. 16 (火) 13:00~16:00

(3月17日付：伊勢新聞：中勢伊賀版に掲載される。)

内容：

13:00 開会挨拶 (学長 栗原廣海)

13:10 取組報告

(1)就職先および学生の意識調査結果報告 (PDF)

高田短期大学 オフィス情報学科 准教授 杉浦礼子

(2)GPA制度の導入について (PDF)

高田短期大学 オフィス情報学科 准教授 高木直人

(3)キャリアカルテシステムについて (PDF)

高田短期大学 オフィス情報学科長 教授 鷲尾 敦

15:00 外部評価報告

(1)大学教育者代表評価報告

- ・当大学としても参考となる。
- ・当大学でキャリアカルテのようなシステムを検討した。
  - ・費用面・プライベート情報の管理・全学での使いこなしが課題。
  - ・GP落選理由、システムを使って教職員が汗をかかない。対面指導が重要。
- ・システムに頼り過ぎると失敗する。
- ・学生の活用度が重要。学生の活用格差は大きく、使うメリットがないと使わない。
- ・教職員の理解が重要。全員がやってくれるか。特定の先生に仕事が集中する不安がある。
- ・間に入るコーディネータの役割が重要。つなぐ人。

○提案1

- ・教育指導に関してシステムの整合性はとれているが、学内で完結している。企業等の出口をどうフォローしていくのか、心配である。
- ・システムを一生懸命使ったのに落ちたというケースはどうか。使ったグループと使っていない学生と比較し就職率が向上していればいいが、そうなるか。
- ・企業にも開いたシステムにしては、どうか。地元企業に、一部のシステムに入ってもらい、出口の連携をしてはどうか。つまり、外部(学外者)向けのシステムの導入。

○提案2

- ・OB/OGの活用。リクルータとして、OG/OBに参加してもらえる広場的なものがあるといいのではないか。

○提案3

- ・あくまでシステムに過ぎなく、活かすのは、人。教職員が全学で参加できることがよいし、高短は全学で取組みやすいと思われる。
- ・就職活動のことを知らない教員はどうしたらよいのか。
- ・就職活動の学生へのアドバイスの方法を練習したり、Q&Aを用意し、システムの使い方と指導そのものの在り方について講習会をすべきである。そして、全員が就職のプロになることを目指す。あるいは、各学科にコアとなる教員を数名おいて窓口とし、全学的な指導体制とする。

○提案4

- ・GPAとの結びつきが大きい。支援の必要がない学生は良いが、学校に来ない学生、モチベーションが上がらない学生をどうやって支援していくかが重要。GPA、出席管理システムで学生の状況を把握し、ブラックリストにあがった学生を重点的にやらせる。学業と就職支援を結びつけるシステム。

○最後に

- ・評価に値するシステムであり、県内の模範、モデルとなるシステムにしてもらいたい。

## (2) 企業採用者評価報告

- ・企業は、収益が結果である、短大は、どんな企業にどれだけ入ったかが結果と感じた。
- ・うまくいかない実例を見ると、人材が企業を左右する。
- ・中小企業は、新卒、あるいは中途採用も大事。
- ・アンケートは、ドライビングスクールでも仮免、卒検などで常にとっている。お客様はどういう状況であるか聞き取り調査も行っている。
- ・以前の大学はほったらかしであったが、今は18歳獲得競争でサービスが求められている。

## (3) 保育士採用者評価報告

- ・システムとして魅力を感じる。
- ・しかし、継続性が大事である。行き詰まりがあったとしても、続けること。
- ・導入には労力がかかり、学生にも負担となる。
- ・できるもん！という学生、システムにのらない選択肢もあっていいのではないか。
- ・GPAでセルフマネジメント力を培うという意味で、カルテを使ってがんばっていると学生が思えるような使い方ならば、このシステムは良い。
- ・しかし、テクニカルな面に走って、意欲、意識関係なくシステムにのっかっていけば就職できるというのでは、このシステムは良くないことになる。モチベーションのない学生は必要ない。
- ・カルテを使って自分の進む道を見つける、セルフマネジメントできることが大事。
- ・連盟でも、アンケートをとっているが、挨拶・マナーなどできていないから大学で学べば良かったという保育士がいる。一般常識、社会常識は大学で学ぶのではない。企業はマナーができて当然と思っている。挨拶やマナーは暮らしの中で身につけるものであるが、学校で身につけるものと思っている人がいる。
- ・自分のマネジメント力を高めていくのに、いいと思うので、継続性をもってやって欲しい。

## (4) 介護福祉士採用者評価報告

- ・今の学生は恵まれている。いろいろな方に支えられていることがわかった。
- ・介護保険は、3年に1回改訂があり、事業者サイドの影響は大きく、地域ニーズが変わってくる。学生の育てる方向も変わることが予想され、この変化にシステムが対応していくことが望まれる。このシステムで改善のかじ取りが難しいのではないかと危惧する。
- ・65歳以上の高齢者は、三重県で4人に1人、いずれ、3人に1人になる。認知症、病気を抱えている人がさらに多くなり、現在42万人が特養ホームの待機している。
- ・求めている人材は、住み慣れた地域で適切にケアできる人、そして、育てられる人である。
- ・如何に育てていくかという点がアンケート結果に出ている。
- ・有資格者、人材を育てていこうとしており、研修をよく行っている。
- ・他のアンケートで、仕事を選んだ理由の中で、給与等の収入が多いからを選んだのが3.1%と他の業種に比べ特異である。
- ・キャリアカルテは、可視化、みえる化のシステムであると思う。しかし、採用後も可視化できるのか、一貫した形作りが課題である。
- ・アンケート結果は、サンプル数が少ないが、結果はその通りと思う。他のデータと比較して掘り下げてほしい。
- ・介護が将来地域経済のけん引役になると思う。

## (5) 高校教育者代表評価報告

- ・送る側として、キャリア教育の現状を紹介する。
- ・現在、三重県の高校で就職して3年以内に離職する割合は42%である。よく753退職というが、専門学校も含めた短大・大学の離職率は現在、754退職といわれる。
- ・フリーター、ニートなど、が多くキャリア教育を推進しているが、しかし、小中高と系統的なキャリア教育の必要性を感じているが、目先に追われて実現していない。
- ・カルテのようなシステムが高校から大学へと引き継ぐことができればいいと感じる。
- ・大学との接続という点で、いろいろと実施されている。
- ・一部先進高校では、大学卒業後の進路について考えて大学へ進学するようにしている。このことから目的を明確にして学習意欲につながり、学力向上につながっている報告がある。
- ・学生が多様化している中で、システムを使って行けるのか。いかに動機づけするか意欲を持たせるかが重要であり、教師の力量が問われている。
- ・組織として情報共有していくのは難しく、うまくいっている学校では、核となる先生がいることはもちろん、元気な学校であり、中身を全員が理解して仕事を分担している。
- ・アンケート調査は参考になった。職種別の能力バランスなど意図をもって実施されたことがわかる。今後の成果を見たい。
- ・GPAキャリア支援と一体となったキャリアカルテは、バランスがとれている。
- ・中身としては素晴らしい。
- ・こういう取組みを高校にも情報を提供して欲しい。
- ・また、高校と連携し、情報共有すれば、学生にとって有効な教育を進めることができるのではないかと。
- ・子どもを思う気持ちがやはり大事であると思った。

## 15:40 質疑応答

### 質問：他大学キャリア支援担当者

・本学ではこのようなことを進めるのが難しく感じる。職員の意思疎通はできているのか。

### 回答：本学学生支援推進プログラム実行委員会委員長

・各学科で就職講座を20回程度行い、全教員が参加したり、学生数に応じて半数の先生が参加するなど、キャリア支援委員の先生が中心に指導している。またアンケート内容は各学科のキャリア支援委員の先生が中心となって作成した。GP実行委員は各学科から委員として選ばれ委員会報告を学科・教授会で報告している。また、学内報告会を2月に実施した。しかし、全教職員が集まるのが時間的に厳しい面もあり、意思疎通が十分に図れているところまで達しているとは言い難いが、これからも実際の運用にあたって全教職員の理解と意思疎通を図っていききたい。今日の報告会で、各教職員は、さらに協力していかなければならないと、決意をあらたにさせていただいたと思っている。

## 15:50 閉会挨拶（局長 河北浩峰）

=====高田短期大学学生支援推進プログラム実行委員会委員=====

子ども学科 准教授 小田義隆 人間介護福祉学科 教授 佐藤 完  
オフィス情報学科 教授 鷺尾 敦 オフィス情報学科 准教授 高木直人  
オフィス情報学科 准教授 杉浦礼子  
事務局 局長 河北浩峰 教学部長 伊藤茂一 学務課係長 北川裕之  
総務課係長 藤善真裕 総務課 高村幸生